



# 取県教育センターだより

## Tottori Prefectural Education Center News

〒680-0941 鳥取市湖山町北5丁目201 【TEL】0857-28-2321(代表) 【FAX】0857-28-8513  
【URL】http://www.torikyo.ed.jp/kyoiku-c/ 【e-mail】kyoikucenter@pref.tottori.jp

### 『アクティブ・ラーニング型研修』の充実！



教職員の資質能力向上のためには、研修のあり方や手法の見直しが必要です。例えば、講義形式だけでなく、より主体的・協働的な学びの要素を含んだ『アクティブ・ラーニング型研修』への転換を図っていくことが重要です。

当センターでも、独立行政法人教員研修センターより講師として、小貫 香織指導主事をお招きして研修を行いました。その際、校内研修を活性化するためのポイントを教えていただきましたので、ご紹介します。

### 校内研修を活性化するために

#### ①主体的な学びを促すには

- ・研修者のニーズを把握し、テーマを明確にする
- ・研修のゴールイメージを共有し、見通しをもって学ぶようにする
- ・話し合ったことや明日から実践することなど学びの手応えが自覚できるようにする など

#### ②協働的な学びを促すには

- ・対話の場の設定（短時間でも互いの意見を出し合う）
- ・形態の工夫（机の配置等の工夫）
- ・グルーピングの工夫（学年別、教科別等）
- ・対話の視点の明確化（具体的な課題の提示） など

教職員が主体的・協働的に問題解決を図りつつ研修を行うことは、互いの力量アップにつながるとともに、それは児童生徒の確かな学びにつながっています。また、「チーム学校」としての組織力をも高めていくこととなります。

### 改訂の方向性 Part1

理科教育の方向性について、学力調査官の山中先生に指導していただきました。



### 教科・領域指導力向上ゼミナール 「小学校理科」「中学校理科」

研修企画担当

国立教育政策研究所 教育課程調査官・学力調査官 山中 謙司 氏

本年度の教科・領域指導力向上ゼミナールでは、小・中学校において、それぞれ「理科」を実施教科とし、年間5回のシリーズ研修を行っています。

5月30日（月）の小・中学校合同研修では、山中学力調査官より「全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた授業改善」や「中央教育審議会の動向とこれからの理科の授業」についてご講義いただきました。その中で、資質・能力を育むためには学びの質や深まりが重要であり、理科における授業づくりのポイントとして以下のことを示していただきました。

#### これからの理科授業づくりのポイント

- ◆意味のある問いで学びの文脈を創る
- ◆子どもの多様な考えを引き出す
- ◆考えを深めるために対話を導入する
- ◆考えるための材料を見極めて提供する
- ◆資質・能力は具体的な活動の中に埋め込む
- ◆子どもの学びを振り返り、学び方を自覚する機会を提供する
- ◆教室や学校に学び合いの文化を創る

意識することで…



子どもが主体の問題解決

協働的な学び

山中学力調査官には、次期学習指導要領の改訂を見据え、今後も小・中のつながりを意識した授業の展開例等についてご指導・ご助言をいただきます。

### 視察

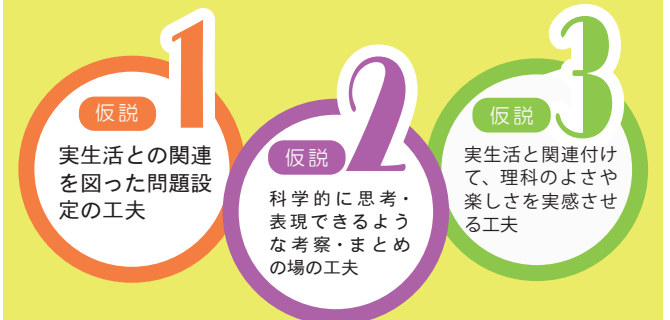
熊本県山鹿市立  
稲田小学校視察



「小学校理科」のゼミナール生6名が県外視察として熊本県山鹿市立稲田小学校を訪問しました。

#### 研究主題

「科学的な見方や考え方を高め合う理科学習」



参観した授業では、仮説1～3にあるような工夫がなされており、研究主題を意識した授業が展開されていました。児童が理科の見方や考え方を働かせ、結果からどんなことがいえるかしっかりと考察しており、児童の深い学びにつながっていました。

次期学習指導要領では、「英語教育」の拡充強化が図られ、小学校段階からの教科化が予定されています。また、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から道徳の教科化がスタートします。このような状況を踏まえて、ここでは「小学校外国語活動」と「中学校道徳」の専門研修の内容をお伝えします。

専門研修【中学校道徳】  
**「考え、議論する」道徳の時間の授業づくり**  
 京都産業大学 教授 柴原 弘志 氏

講師から、(1)学習指導要領の目標の重要性、(2)評価について教えていただきました。

**「特別の教科 道徳」の目標**

「(前略) よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、①道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を②(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の生き方(人間としての生き方) についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」

**学習指導要領**

**講義のポイント**

(1) - ①真の価値理解につなげるために

- ・生徒が考えたいような問い(必然性のある)
- ・他者の多様な考えを聴きたいような問い
- ・自省や自問できるような問い
- ◆新たな視点の提示、概念くだけ、揺さぶり、価値葛藤などができる問いを立てていくことが大切である。

(2) 道徳の評価(見取りの視点)は

- ・他者との比較ではなく、生徒一人一人のもつよい点や可能性などを多様な側面で見取る
- ・児童生徒の伸び・進歩の様子を見取る
- ◆教師が人間的・道徳的な成長を温かく見守り、共感的な理解に基づいてよりよく生きようとする努力を認めることが必要である。

(1) - ②(広い視野から)多面的・多角的に考えるとは

- (例) 道徳的価値……「友情」
- 「仲良くする」「助け合う」「信頼する」など多様な側面から考えることが必要である。
  - ・他者との関わりによって、自分が考えた価値と違う側面から「友情」について考える。
  - ・「高め合う」「切磋琢磨」という側面から「友情」(中学校)について考える。
  - ◆諸事象の背景にある道徳的諸価値の多面性に着目させ、それを手掛かりにして考察させて、様々な角度から総合的に考察することの大切さや、いかに生きるかについて主体的に考えることの大切さに気付かせることが肝要である。

専門研修【小学校外国語活動】  
**「聞きたい伝えたい！コミュニケーションを図る楽しさを実感できる外国語活動」**  
 東京学芸大学 教授 粕谷 恭子 氏

**歌の活用では…**

- ・英語の自然な音声にふれさせるようにする
- ・まずは曲をたっぷり聞かせて、その後、歌う活動を(インプットからアウトプットが大切！)
- ・一つの曲でもバリエーションを変えて、何度も聞いたり歌ったりすることができるように活動を工夫する。

- 活動例**
- ①(曲を聞かせて)「どんな言葉が聞こえた？」
  - ②「〇〇という言葉が、何回出てきた？」
  - ③「〇〇の言葉の所だけ歌ってみよう。」
  - ④「手拍子を付けて2人組で歌ってみよう。」等

**指示の与え方では…**

- ・語尾まではっきり、ゆっくり、繰り返し何度も言うように働きかける！変化をつけて、リズムを崩さないように気をつけて
- ・英語の表現を覚えるためだけに、必要感のない表現を呪文のように繰り返し言わせるのではなく、児童の実態や関心があるもの、普段の生活の中から、児童が聞きたいようになる動機づけや必要感のある活動を創造していこう！



**講義のポイント**

子どもに言葉を習得させる上で大切にしたいこと

- 1** 発する言葉に心や思いをもたせる
- 2** 言葉の意味と音声を結びつける
- 3** 表現させたい音声をまずはたっぷりと子どもにインプットする
- 4** 教師は語尾まではっきり、ゆっくり、何度も繰り返し音声を発し、子どもに聞かせる